



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

主な
内容

- 1、2面 マイ・オンコロジー・ドリーム
奨励賞授賞式
3面 シリーズがん教育⑧
静岡県立大学特任教授若林敬二
8面 RFLJ10周年記念セレモニー

2015年度RFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞

新たにシカゴ大学にも派遣 米大使館と共催でパネルディスカッション

岩瀬俊明さん、及川将弘さん、鳩貝健さんに決定

「リレー・フォー・ライフ(RFL)マイ・オンコロジー・ドリーム(MOD)奨励賞」の2015年度の授賞式が4月26日、東京・港区のアメリカンセンターJapanホールで開かれた。

同賞は日本対がん協会が各地の実行委員会と共に開催しているリレー・フォー・ライフに寄せら

れた寄付金をもとに、地域のがん医療の充実を図るために2010年度に設けられた米国における1年間の留学研修プログラム。全米有数のがん専門病院であるテキサス大学MDアンダーソンがんセンターの協力と、一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクトの支援の元にこれまで9名の若手医師を米国に送りだしてきた。

6年目となる今年からはシカゴ大学医学部でも同プログラムが実現し、3名の内1名がシカゴ大学で研修する。

今年度の受賞者は千葉大学付属病院臓器制御外科の岩瀬俊明医師(36)と、にゅうわ会及川病院乳腺外科の及川将弘医師(40)と、国立がん研究センタ



左から上野直人教授、ケネス・コエン教授、受賞者の及川将弘さん、鳩貝健さん、岩瀬俊明さん、垣添忠生・日本対がん協会会長

一東病院消化管内科がん専門修練医の鳩貝健医師(35)の3名。岩瀬医師と及川医師がMDアンダーソンがんセンターで、鳩貝医師がシカゴ大学医学部でそれぞれ1年間研修する。

垣添忠生日本対がん協会会長が3人の受賞を発表、RFLJに寄せられたがん患者や支援者の思いをのせて、すばらしい研究環境の受け入れ先機関でぜひ貴重な経験を積んで欲しいと激励の言葉を述べた。

続いて上野直人MDアンダーソンがんセンター教授が3人の受賞者に奨励賞を授与した。順番に登壇した受賞者たちは、それぞれがん医療への思いや研修先での計画や夢を真摯に語った

(2面に関連記事)。

RFLJのボランティアを代表して医師でがん経験者の坂下千瑞子氏が、寄付を寄せた大勢の仲間たちに代わって、期待と応援の言葉を述べた。

第2部は米国大使館と共催で「日本のがん研究の発展および未来のがん専門医の育成を目指して」と題するパネルディ

スカッションを開催。がん征圧という日米共通の目標のために日米相互の交流や米国留学の意義について意見が交わされた。

同奨励賞の第一回受賞者の増田絃子医師の講演の後、上野直人教授、シカゴ大学医学部のケネス・コエン教授、受賞者の古川孝広医師が、米国での研究生活や研究環境、心構えなどを話し、ビジョンを持って5年後、10年後を見据えて学んでほしいとがん専門医を目指す若い研究者を激励した。

会場にはがんの臨床研究に携わる医師や研究者、製薬会社やRFL関係者など80名あまりの聴衆が詰め掛け、熱心に聞き入っていた。

がん相談ホットライン 祝日を除く毎日
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

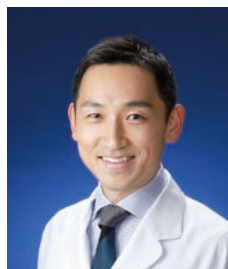
医師による面接・電話相談(要予約)
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

MOD奨励賞受賞の言葉 「マイ・ドリーム」

患者さんの思いを原動力に、世界標準の治療を地域に広げたい

千葉大学附属病院臓器制御外科 岩瀬俊明



リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)が10周年との事ですが、私は医師になって11年目になります。千葉県がんセンターなどで乳腺外科医としてトレーニングを積む中で、

臨床試験に携わる機会が幾度もあり、セミナーやインターネット、上司からの耳学問など独学で学んで来ました。しかし、知識が深まるにつれ独学には限界を感じ、自分でもエビデンス作りに参加し、それを広めて地域医療を向上させるために系統だって学びたいという思いが強くなりました。今回、MDアンダーソンという海外のトップ

クラスのがん治療施設で研修するまたとない機会があることを知り応募しました。研修では臨床試験のやり方、企画・実践の様子を学び、日本に帰ったときには地域の実情にあった医療として還元したいと思います。RFLJに寄付をお寄せいただいた患者さんの思いを原動力として、患者中心の医療のあり方をぜひ学んで来たいと思います。

仲間と共にわが国の現状にあった乳がん治療・研究システムを構築したい

にゅうわ会及川病院乳腺外科 及川将弘



福岡から参りました及川です。このたびは憧れのMDアンダーソンで研修する機会をいただき、今でも夢のようです。このご恩をどのようにお返ししようと考えています。私はこの

アワード初の民間病院からの選出かと思いますが、乳がん診療・研究に携わっています。ホスピス15床を含む36床の小さな病院ですが、乳がん患者さんに最初から最後まで寄り添うという理念のもとに、乳がん専門病院として検診から緩和医療まで包括的に行ってきました。特に乳がん医療では患者さんに比べて医師不足が深刻で、多くの

乳がん患者さんが市中の中小病院で治療を受けています。私はMDアンダーソンがんセンターで世界最高水準の乳がん診療に加え、臨床試験を含めたシステム作りを学びたいと思っています。それを九州に持ち帰り、仲間たちと共に九州に、そして日本に広げたいと思います。この機会を教えてください。先生方にも心から感謝いたします。

アジアがんの治療開発に応用・貢献できるように広く学びたい

国立がん研究センター東病院 消化管内科 鳩貝 健



このような素晴らしい賞を頂き、大変嬉しく思うと同時に、シカゴ大学医学部へ派遣される1人目の医師として身の引き締まる思いです。私は消化器内科医としての経験を背景に、国立がん研究セン

ター東病院では消化管悪性腫瘍を中心とするがんの化学療法に広く取り組んで参りました。特に最近では食道がんについて重点的に臨床研究やバイオマーカー・腫瘍免疫に関する研究を重ねてきました。食道がんは日本を始めアジアでは比較的頻度が高いものの、国際的な治療開発の枠組みから取り残され、10年以上標準治療が変わっていません。このようなアジアがんの治療

開発に応用・貢献できるように、研修では治療薬の開発早期からの橋渡し研究(translational research)や開発早期の臨床試験について学びたいと考えています。また、免疫治療についても先行するアメリカで開発の状況について知見を広げ、今後の診療・研究に活かしていきたいと考えています。

上野直人MDアンダーソン教授が朝日新書「一流患者と三流患者」を出版 印税をRFLに寄付



上野直人教授が、新刊「一流患者と三流患者～医者から最高の医療を引き出す心得」を刊行した(朝日新聞出版、税込821円)。内容は上野教授のかねてからの持論である「患者力を高める」ことの重要性を自身のがん闘病経験にも触れながらわかりやすく語ったもの。上野教授の言う一流患者とは、医者任せにせず、医

者と一緒に考え、納得して治療の選択ができる主体的な患者のこと。一方、三流患者とは病院や医者に文句ばかり言うモンスター患者のこと。日米の医療比較から、一流患者になるための「情報整理術」、「治療法」など盛りだくさんの内容だ。

本書の印税はRFLJに寄付され、がん征圧のために役立てられる。

シリーズがん教育⑧ 外部講師と保健体育科教諭の組み合わせ、10分間授業も 静岡県の取り組み

静岡県立大学特任教授 若林敬二

静岡県教育委員会では、文部科学省の「がんの教育総合支援事業」を受けて、2014年度から県立高校をモデル校に指定し、さまざまなモデル授業を実践している。これらの取り組みについて同県の「がんの教育に関する協議会」のメンバーで、リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)静岡の実行委員長を務める若林敬二静岡県立大学特任教授に伺った。



研究室の若林敬二先生

がんをテーマに公開授業

——モデル校ではどのような授業を行ったのですか

一昨年は県立富士高校、昨年は県立袋井高校の各1校ずつがモデル校に指定されました。富士高校では11月に全校生徒向けにがんに関する講演会を実施し、私が「がんの発生要因とその予防」、患者代表として、あけぼの静岡代表の星野希代絵さんが「患者からのメッセージ」と題して、2本立ての講演を行いました。その後、講演会の内容を踏まえて、1年生女子42人を対象に、同校の保健体育科教諭による公開授業を行いました。授業の一部では子宮頸がんを取り上げました。講演会と公開授業の前後にはそれぞれアンケートを実施しました。すべて読んで回答したので大変でしたね。

——子宮頸がんに焦点をあてるのは、ワクチンの副反応問題などで難しい点

もあったのでは

子宮頸がんは若くてもかかる恐れのあるがんで、女子にとっては一番身近ながんで関心も高いです。ワクチンの副反応の原因がはっきりしていないこともあり、取り上げるのに難しい面もありますが、実際には不安に感じている生徒もいたため、正しい知識、検診の重要性、家族との支えあいについても伝え、考えさせる授業をしました。

10分間授業で知識定着

——袋井高校の方はどのような取り組みだったのですか

袋井高校も外部講師を招いた講演会と公開授業という点は富士高校と同様です。講演会は1年生対象に「生活習慣とがん」というテーマで私が話し、2年生は「がんの治療法、がん治療における緩和ケアについて」というテーマで磐田市立総合病院緩和医療科の医師、それにあけぼの静岡の星野さんが患者の思いを語りました。それを受けて1年生を対象に「喫煙と健康」というテーマで袋井高校の保健体育科教諭が保健の公開授業を行いました。

ここまでは富士高校と同様ですが、袋井高校では講演会などに先立つ6月から1月にかけての保健の授業で、毎時間10分程度がんについての内容を話すという独自の取り組みを行いました。全部で20回以上になりますか。

——珍しい取り組みですね

はい。袋井高校の先生から、「生徒たちは今、いっぱい新しい知識を取り入れる時期だけど、一挙に詰め込んでしまうのもオーバーフローしてしまう。少しずつ何回も教えていく方が

定着する」という指摘があったのです。やはり現場の視点は違いますね。詳細な実施計画や指導内容を策定して授業を重ねる中で、教師自身もがんについての知識を蓄えていけるという効果もあるようです。

外部講師の課題とは

——がん教育に携わって初めての感想や課題は

外部講師として一番難しかったのは、高校生を相手に話す経験が乏しいことでした。普段講義するのは大学生か、年配の市民の方が大半なので、どのくらいの内容を理解してくれて、どういう風に工夫すれば興味を引き付けられるのか、そういったことが全くわかりませんでした。でも、実際講演してみると、生徒たちの理解度は予想以上に高く、非常に関心を持って聞いてくれていたことがわかりました。感想文にも、がんが長い時間をかけて発生することや、検診の効果について全く知らなかったという意見も多く、がんが治る病気であることを知って驚いたという感想もありました。特に女性のがんは5年生存率も95~96%と、よく治るがんなので、授業をきっかけにぜひ検診の大事さをわかって欲しいですね。

——リレー・フォー・ライフの場をがん教育に生かせないでしょうか

講演会で患者さんが話す生徒の反応が全く違います。リレーに関わっている人の中でも話すことが得意な人や好きな人も思うので、こちらから教育委員会に積極的に働きかけて協力しても良いと思います。学校に出向くのも良いし、たまには教室を離れて、リレー・イベントのようなリラックスした場で、子どもたちががんの事を学ぶ機会を持ったら良いと思います。(聞き手 日本対がん協会 本橋美枝)



静岡県立大学グラウンドで開催されたRFLJ静岡

増える子宮頸がん・子宮体がんへの対策 対がん協会が日本産婦人科医会と一緒に各地で啓発セミナー

5月22日の長崎から

婦人科がんの代表格、子宮頸がんや子宮体がんを患う日本人女性が増えている。年間の発病者はそれぞれ3万2403人と1万4763人(全国がん罹患モニタリング集計2011より)。いずれも10年前の2倍になった。こうした実情を知ってもらい、検診の拡充を図ろうと日本対がん協会は今年度、日本産婦人科医会と共同で専門家らに向けたセミナーを各地で企画。初回を5月22日に長崎市で開催する。

各地の学術集会にあわせ開催

今回のセミナーは、日本産科婦人科学会の地域での学術集会にあわせて開くことを特徴としている。長崎市でのセミナーは、九州連合産科婦人科学会のランチョンセミナーとして企画。5月22日12時～13時20分、同市のホテルニュー長崎で開く。

講師は、鈴木光明・日本産婦人科医会常務理事と前田宜延・富山赤十字病院病理診断科部長。鈴木氏が「LBC／HPV検査併用子宮頸がん検診」について、前田氏が「内膜細胞診におけるLBC法の有効性」について講演する。

座長はそれぞれ小西郁生・京都医療センター院長、藤井知行・東京大学大学院医学系研究科教授(産婦人科)。

2人の講師が共通テーマとしたLBCは、液状化検体細胞診のことを言う。子宮頸がん検診や、子宮体がんの検査では、従来、調べる細胞をブラシやヘラなどで採取し、そのままスライドグラスに塗りつけて顕微鏡でチェックしてきた。LBCは、採取した検体を特殊な保存液に入れ、細胞の混ざった液体から標本をつくるもので、検診の精度向上を目指して開発された。LBCは細胞の偏在が防げるのに加え、標本作成が自動化され、標本の均一化が図られて不適正標本が減ると期待されている。

HPV検査の併用も、精度が高まるとして欧米で導入が進む。HPVの感染から子宮頸がん発症にいたる過程が明らかにされたことを受け、併用で検診間隔が延長されるなど、効率化も図られてきた。

また最近では、子宮体がんの検査でも、採取した子宮内膜の細胞を液状化してチェックする方法の導入が試みら

れ、子宮頸がん検診と同様に、精度が高まると見込まれている。

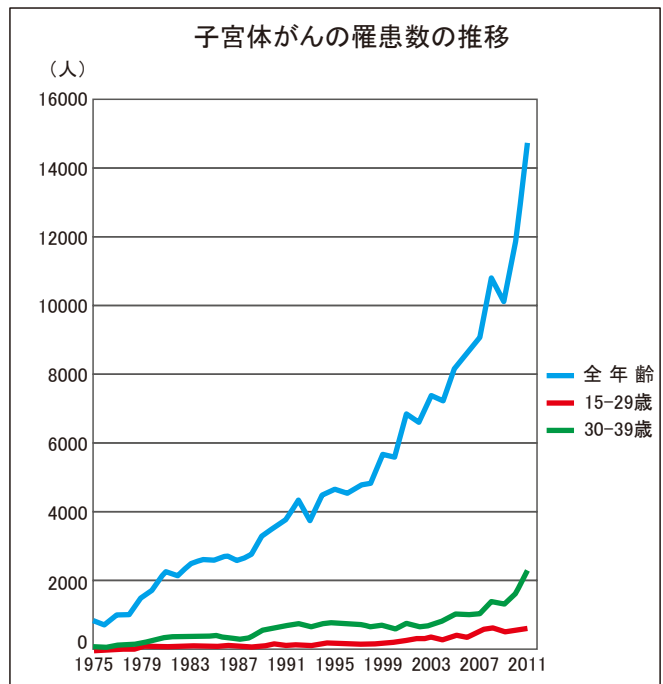
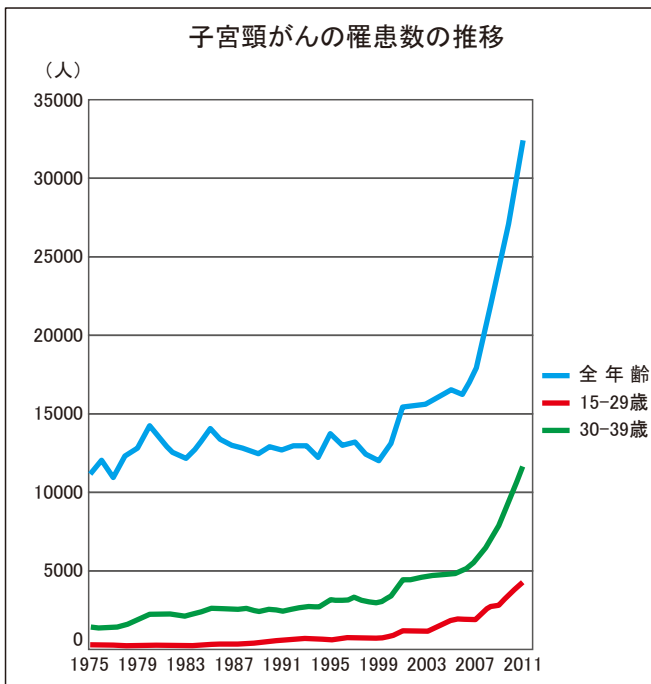
セミナーでは、こうした最新の情報を紹介するとともに、疑問に関する質疑が行われる。

会員以外も参加可能

学会でのセミナーは一般に学会員でなければ参加できない。参加が認められるとしても会費の支払いが必要。しかし、今回のセミナーは、趣旨に賛同した主宰者側の配慮により、学会員でなくても検診機関や行政の担当者らも参加できる。ただし事前に申込用紙に名前や所属などを記入し、日本対がん協会にファクスで申し込む必要がある。

長崎に続いて、6月19日に盛岡市での東北連合産科婦人科学会でモーニングセミナーを、9月18日には札幌市での北日本産科婦人科学会のモーニングセミナー、同24日は高松市で開催の中四国産科婦人科学会でランチョンセミナーを開催する予定。

問い合わせは、日本対がん協会(電話03-5218-4771、担当・小西)へ。



(推計、全国がん罹患モニタリング集計より)

リレー開幕に向け、決意を新たに RFLJ2016 キックオフミーティング開催

日本対がん協会は4月17日、リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)2016年度キックオフミーティングを東京・中央区の国立がん研究センター内国際研究交流会館で開催した。全国42開催地の実行委員や関係者ら約110名が参加した。

冒頭は坂野康郎日本対がん協会事務局長が挨拶に立ち、検診研究やがん相談ホットライン、がん教育など2016年度の日本対がん協会の活動について説明した。

パネルディスカッションでは、以下の6つのテーマについて話し合われた。

「リレーへの思い」については、初開催や今年2回目の開催となる地域の代表者が登壇し、それぞれがリレー開催への思いを語った。

「Celebrate」については、がん経験者を讃える「サバイバーラップ」の大



活発に意見が交わされた

切さが改めて確認され、すでに岡崎や芦屋などで行われている支援者を讃えるための「ケアギバーズウォーク」を行うってはどうかという提案もあった。

「Remember」については、ルミナリエの工夫やエンプティテーブルの演出について、各地の様々なアイデアが出された。

「Fight Back」については、寄付集めの工夫や啓発活動に関して、実践的なアイデアが多数出された。

「チームの大切さ」については、チームが会場の顔であり、「お客様」ではなく「仲間」という意識で一緒にイベント

を作り上げていくことの大切さが話し合われた。

「実行委員会・ボランティア」については、各地の実行委員たちが最も難しいと感じているテーマ。新しい実行委員のメンバーをどう確保していくか、学生ボランティアとのかかわり方など、具体例を交えながら熱心に話し合われた。

最後に、日本対がん協会の岡本宏之RFLJ統括マネージャーが挨拶に立ち、「RFLJは今年10周年を迎えますが、今後もみなさんのお力をお貸しください」と締めくくり、2016年度のリレー開幕に向けて、決意を新たにしました。

4月16日、17日に行われたRFLJ10周年セレモニーとキックオフミーティングの会場で熊本地震への義援金を募ったところ、2日間で合計23万5478円が集まった。この義援金は、RFLJ熊本の実行委員会に送られる。

「第12回ピンクリボンデザイン大賞」作品募集スタート

ピンクリボンフェスティバル運営委員会(日本対がん協会、朝日新聞社ほか)は、ピンクリボンデザイン大賞の

作品募集を母の日の5月8日(日)から開始する。乳がんの早期発見の大切さを伝え、検診受診を呼びかけるポスター

デザインとコピーを募集する。

ポスター部門グランプリ受賞者には賞金50万円を贈呈し、作品はポスター化して交通広告として掲示される。また、コピー部門グランプリ受賞者には賞金10万円を贈呈し、作品は次年度以降のポスター部門課題コピーなどで活用される。

【募集部門】

・ポスターデザイン部門

A:「間に合え、勇気。」

上記のコピーを使用した受診を促すポスターデザイン

B:「夫婦」をテーマとした受診を促すポスターデザイン

・コピー部門

「キャッチフレーズ」もしくは「キャッチフレーズ+ボディコピー」

【募集期間】 5月8日(日)～6月30日(木)

【募集内容】 乳がんの正しい知識や早期発見の大切さを伝え、検診受診を呼びかける作品

【応募方法】 ピンクリボンフェスティバル公式サイト(<http://www.pinkribbonfestival.jp/>)のデザイン大賞のページからご応募ください。

【特別協賛】 キリンビレレッジバリューベンダー(株)、富国生命保険相互会社

【主催】 ピンクリボンフェスティバル運営委員会(日本対がん協会、朝日新聞社ほか)

【後援】 厚生労働省、東京都、日本医師会、日本看護協会



第11回ポスター部門グランプリ作品

2014年度グループ支部 がん検診の実施状況から ◇胃がん

■支部別受診状況～X線検査・内視鏡検査の合計：男女合計

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果					異常なしの人数 (E)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 的中度 (D/B)
				がん(D)	がん疑い	がん以外の疾患	異常なし	その他			
北海道	113,815	6,962	6,154	186	11	5,333	525	99	106,853	0.16%	2.67%
青森	84,201	8,406	6,952	96	46	5,623	995	192	75,795	0.11%	1.14%
岩手	116,375	6,480	5,740	152	0	4,545	1,029	14	109,895	0.13%	2.35%
宮城	182,252	11,261	10,331	311	0	8,764	1,227	28	170,991	0.17%	2.76%
秋田	45,388	3,817	2,845	61	12	1,400	1,359	13	41,571	0.13%	1.60%
山形	103,512	9,128	7,459	93	18	5,221	2,127	0	94,384	0.09%	1.02%
福島	92,125	6,042	4,874	77	6	3,857	810	88	86,083	0.08%	1.27%
茨城	90,895	8,162	6,651	119	11	6,065	456	0	82,733	0.13%	1.46%
栃木	51,381	4,697	3,905	83	15	3,401	382	0	46,684	0.16%	1.77%
群馬	40,675	3,874	3,404	75	9	2,827	337	3	36,801	0.18%	1.94%
埼玉	41,360	2,257	1,884	69	9	1,472	325	9	39,103	0.17%	3.06%
千葉	149,315	10,175	7,479	167	8	6,654	650	0	139,140	0.11%	1.64%
新潟	154,413	10,456	9,454	568	24	3,308	2,759	3,130	143,957	0.37%	5.43%
山梨	14,531	1,406	1,133	11	2	954	152	0	13,125	0.08%	0.78%
長野	60,844	5,499	4,029	45	0	3,198	767	19	55,345	0.07%	0.82%
富山	41,704	2,781	2,238	49	1	2,018	156	8	38,923	0.12%	1.76%
石川	28,270	3,610	2,945	61	1	2,442	370	72	24,660	0.22%	1.69%
福井	30,086	2,463	1,987	48	1	1,676	262	0	27,623	0.16%	1.95%
愛知	23,025	1,603	1,195	12	0	885	215	83	21,422	0.05%	0.75%
三重	17,213	856	549	12	1	381	152	3	16,357	0.07%	1.40%
滋賀	14,118	1,183	-	-	-	-	-	-	12,935	-	-
京都	56,577	4,420	1,715	25	5	1,425	139	121	52,157	0.04%	0.57%
兵庫	87,403	3,497	2,024	66	2	1,578	366	0	83,906	0.08%	1.89%
奈良	7,682	402	331	6	1	296	25	3	7,280	0.08%	1.49%
和歌山	19,776	1,698	868	9	0	689	170	0	18,078	0.05%	0.53%
鳥取	29,886	2,001	1,401	25	4	1,104	266	0	27,885	0.08%	1.25%
島根	40,952	2,647	1,706	53	11	1,353	266	23	38,305	0.13%	2.00%
岡山	29,814	1,768	1,144	17	7	962	98	60	28,046	0.06%	0.96%
広島	24,892	1,171	950	37	1	738	98	76	23,721	0.15%	3.16%
山口	32,097	4,952	1,081	15	0	920	140	6	27,145	0.05%	0.30%
徳島	28,495	2,456	1,979	33	3	1,765	142	36	26,039	0.12%	1.34%
香川	30,284	1,858	1,768	48	0	1,607	111	2	28,426	0.16%	2.58%
愛媛	51,894	3,064	2,587	60	7	2,138	380	2	48,830	0.12%	1.96%
高知	64,036	2,870	2,273	51	7	881	1,334	0	61,166	0.08%	1.78%
福岡	83,859	5,028	3,721	59	2	3,100	558	2	78,831	0.07%	1.17%
佐賀	24,735	2,785	2,341	37	8	1,834	457	4	21,950	0.15%	1.33%
長崎	28,990	1,681	1,437	22	7	1,138	269	1	27,309	0.08%	1.31%
熊本	49,671	1,909	1,474	40	1	1,257	176	0	47,762	0.08%	2.10%
大分	20,475	2,660	2,338	18	0	2,026	294	0	17,815	0.09%	0.68%
宮崎	35,563	2,137	1,849	47	0	847	528	427	33,426	0.13%	2.20%
鹿児島	94,667	9,097	8,106	105	7	7,119	875	0	85,570	0.11%	1.15%
沖縄	31,064	1,408	933	4	0	616	130	183	29,656	0.01%	0.28%
合計	2,368,310	170,627	133,234	3,072	248	103,417	21,877	4,707	2,197,683	0.13%	1.80%

2014年度グループ支部 がん検診の実施状況から ◆大腸がん

■ 男女合計

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果						精検の結果		異常なしの人数 (E)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 的中度 (D/B)
				粘膜内がん(M) (D1)	がん(M以外) (D2)	がん (D1+D2)	がん疑い	がん以外の 疾患	異常なし	その他の結果				
北海道	130,777	10,701	9,097	147	276	423	3	6,101	2,570	0	120,076	0.32%	3.95%	
青森	99,760	5,868	4,636	82	84	166	47	3,153	1,052	89	93,892	0.17%	2.83%	
岩手	121,032	6,519	5,157	102	163	265	0	3,365	1,524	3	114,513	0.22%	4.07%	
宮城	63,110	3,402	3,037	87	99	186	0	1,920	930	1	59,708	0.29%	5.47%	
秋田	69,593	4,881	3,701	144	0	144	8	2,290	1,241	18	64,712	0.21%	2.95%	
山形	124,484	7,412	5,427	185	0	185	23	3,039	2,180	0	117,072	0.15%	2.50%	
福島	121,202	8,850	6,258	50	106	156	14	3,720	2,123	131	112,352	0.13%	1.76%	
茨城	162,564	12,064	8,821	149	180	329	29	6,578	1,885	0	150,500	0.20%	2.73%	
栃木	73,128	4,200	3,124	85	51	136	25	2,136	785	0	68,928	0.19%	3.24%	
群馬	32,726	1,478	1,020	22	40	62	5	689	264	0	31,248	0.19%	4.19%	
埼玉	20,409	1,097	770	14	21	35	6	531	191	7	19,312	0.17%	3.19%	
千葉	120,985	7,066	4,354	37	102	139	8	3,105	1,102	0	113,919	0.11%	1.97%	
新潟	128,972	8,114	6,762	0	335	335	32	3,745	2,326	541	120,858	0.26%	4.13%	
山梨	17,823	973	505	6	5	11	2	348	131	0	16,850	0.06%	1.13%	
長野	106,708	6,547	4,328	0	0	0	153	2,514	1,454	207	100,161	0.00%	0.00%	
富山	34,801	2,064	1,382	23	34	57	1	922	402	0	32,737	0.16%	2.76%	
石川	25,962	1,742	1,293	27	27	54	0	900	331	8	24,220	0.21%	3.10%	
福井	55,051	2,992	2,162	28	73	101	5	1,557	499	0	52,059	0.18%	3.38%	
愛知	14,264	1,055	631	0	0	0	21	372	238	0	13,209	0.00%	0.00%	
三重	25,903	1,560	923	9	22	31	1	578	308	0	24,343	0.12%	1.99%	
滋賀	14,717	935	-	-	-	-	-	-	-	-	13,782	-	-	
京都	84,913	5,907	-	-	-	-	-	-	-	-	79,006	-	-	
兵庫	90,807	4,582	1,960	64	0	64	0	1,371	494	0	86,225	0.07%	1.40%	
奈良	1,497	112	34	3	0	3	0	16	15	0	1,385	0.20%	2.68%	
和歌山	21,159	1,311	464	0	19	19	0	309	115	18	19,848	0.09%	1.45%	
鳥取	41,661	2,733	1,771	0	78	78	4	1,053	612	0	38,928	0.19%	2.85%	
島根	46,847	2,206	1,335	57	19	76	2	744	442	22	44,641	0.16%	3.45%	
岡山	34,609	2,301	1,324	13	15	28	14	901	321	52	32,308	0.08%	1.22%	
広島	33,374	2,237	1,645	47	52	99	0	1,086	388	0	31,137	0.30%	4.43%	
山口	46,489	2,489	835	15	17	32	4	547	252	0	44,000	0.07%	1.29%	
徳島	23,858	2,111	1,336	7	34	41	3	840	426	26	21,747	0.17%	1.94%	
香川	20,700	1,138	998	15	18	33	0	746	219	0	19,562	0.16%	2.90%	
愛媛	71,789	4,062	3,118	14	69	83	8	2,010	963	54	67,727	0.12%	2.04%	
高知	67,909	2,293	1,581	37	28	65	11	1,078	427	0	65,616	0.10%	2.83%	
福岡	77,272	4,416	2,609	40	73	113	0	1,731	734	20	72,856	0.15%	2.56%	
佐賀	26,129	1,890	1,463	0	0	0	3	1,037	365	18	24,239	0.00%	0.00%	
長崎	39,099	2,767	2,046	34	53	87	4	1,470	475	2	36,332	0.22%	3.14%	
熊本	51,406	3,262	2,187	13	22	35	0	1,586	566	0	48,144	0.07%	1.07%	
大分	23,613	1,547	1,267	27	23	50	0	914	303	0	22,066	0.21%	3.23%	
宮崎	25,910	1,772	1,317	11	25	36	1	805	418	57	24,138	0.14%	2.03%	
鹿児島	56,261	3,561	2,770	31	41	72	16	2,100	580	1	52,700	0.13%	2.02%	
沖縄	41,654	2,493	1,402	11	44	55	4	856	383	104	39,161	0.13%	2.21%	
合計	2,490,927	154,710	104,850	1,636	2,248	3,884	457	68,763	30,034	1,379	2,336,217	0.16%	2.51%	

Paint Your World PURPLE～世界を紫に染めましょう～ RFLJ 10周年記念セレモニー開催

新たな10年に向かって

リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)が10周年を迎え、4月16日に、東京・築地の浜離宮朝日ホールで記念セレモニーが開催された。全国各地の実行委員や関係者、協賛企業など約170人が一堂に会し、RFLのイメージカラーである紫色(ドーン・パープル)のポロシャツに身を包んで、RFLJの10周年を喜び合った。



会場を紫に染めた全員ウォーク

冒頭、司会を務めるRFLJ10周年推進委員長のホリキンさんこと堀均さんが、震災の影響で欠席した熊本の実行委員からのメッセージを読みあげた後、「RFLJ10周年の軌跡」と題したビデオ映像が上映された。

命を讃え、亡き人を偲んで

ビデオは、2006年から2007年にかけての茨城県つくばでのプレ開催から、兵庫県芦屋での本格開催にいたるまでの様子をNHKがまとめたドキュメンタリー映像を中心に、草創期に力を尽くしたリレーヤーたちの姿や、この10年のRFLJの軌跡を映像で振り返るもので、堀さん自ら編集した。RFLJ草創期に中心になって尽力した三浦秀昭さん(横浜市、享年57歳)を始め、すでに帰らぬ人となった仲間たちの笑顔が画面に焼き付けられていた。舞台にもそれらの仲間たちの写真を添えたルミナリエが飾られ、皆が心



司会の堀均さん

の中で旅立った仲間たちを偲んだ。

記念セレモニーは、RFLJのイベントを疑似体験できるような構成で、ビデオ上映の後にはがん経験者(サバイバー)やそれを支える家族や友人たち(ケアギバー)が会場内に設けた小さなトラックを歩く、サバイバーズラップ&ケアギバーズラップが行われた。会場の皆が大きな拍手で讃えた。

垣添忠生日本対がん協会会長の挨拶、ゲイリー・リーディーアメリカ対がん協会CEOのビデオメッセージに続いて、三船剛由日本対がん協会元理事・事務局次長や、横山光恒RFLJ中部地区スタッフパートナーらがRFL日本上陸前夜の苦労や熱気を語った。思い出を話しながらさまざまな思いがこみ上げて涙ぐむ人もいた。

RFLJに寄せられた貴重な寄付により実現した若手医師の海外奨学医事業や、研究助成事業を代表して、栃木県立がんセンター乳腺外科の原尾美智子医師がMDアンダーソンがんセンターで学んだこと、東京医科歯科大学免疫治療学の神奈木真理教授がプロジェクト未来研究助成の成果を発表し、会場のリレーヤーたちにも希望と感銘を与えた。

日本対がん協会相談支援室を代表して荒木光子相談員ががん相談ホットラインの活動を詳しく報告した。

休憩をはさんで、グローバル・ヒーローズ・オブ・ホープが紹介され、金髪のかつらと英語のスピーチで会場を笑いの渦に包んだ「まきどん」こと鈴木牧子さんを始め、人間味豊かなメンバーの力強いスピーチが会場を盛り上げた。

がん征伐への思い新たに

全員ウォークに続いて、RFL委員で東京医科歯科大血液内科医師の坂下千瑞子先生の進行で、「命を讃え、子どもたちの輝く未来に」と題したパネルディスカッションを開催。岡本宏之RFLJ統括マネジャーを始め、マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞奨学医の増田絢子昭和大学乳腺外科医師や九州地区ブロックスタッフの宮部治恵さん、協賛企業のソニー生命保険の村上均さんの他、厚生労働省から高橋宏和健康局がん・疾病対策課課長補佐も駆けつけて、リレーのこれまでの活動や、今後のビジョンについて話し合った。

終幕が近づいたころ舞台のエンピテーテーブルにスポットライトがあたり、ルミナリエセレモニーがしめやかにとり行われた。今は亡き人を静かに偲ぶサイレントウォークで締めくくられた。笑いあり、涙ありのセレモニーが終わり、会場は静かな感動に包まれていた。



発言する高橋宏和厚生省課長補佐